

風疹抗体保有率の年齢別検討

医療法人 三慧会 IVF なんばクリニック

伊藤啓二郎 河野恵美子 前沢忠志 姫野隆雄 大西洋子 井上朋子 中岡義晴 橋本周  
森本義晴

【目的】妊娠初期に女性が風疹ウイルスに感染すると胎児が先天性心疾患、白内障、難聴を特徴とする先天性風疹症候群（CRS:congenital rubella syndrome）を発症する可能性がある。CRS 発生の最も有効な予防法は妊娠前のワクチン接種での抗体獲得である。風疹ワクチンは、77年から女子中学生を対象に集団接種されていたが、95年の予防接種法改正により1-7歳半の男女に接種対象が変更された。このため対象から外れた当時7歳半から16歳未満の男女を対象に無料でワクチン接種できる経過措置が取られたが、接種したのは半数以下であった。2012年初めより関西圏を中心に風疹が流行しており、CRS 発生が懸念されている。今回その予防接種を特に勧めるべき患者群を確認するため年代別に抗体保有率を比較した。【方法】2012年6月から2013年2月までに当院を受診した女性患者1133名の風疹HI抗体を測定し、HI抗体価16倍以下を抗体陰性、32倍以上を抗体陽性として各年齢での抗体保有率を検討した。統計解析はカイ2乗検定で $p < 0.05$ を有意差ありとした。【結果】それぞれの年齢での抗体陰性率は28歳以下:15.0%、29歳:18.9%、30歳:9.4%、31歳:16.4%、32歳:16.4%、33歳:22.7%、34歳:17.8%、35歳:14.3%、36歳:18.8%、37歳:19.1%、38歳:22.6%、39歳:19.0%、40歳:15.8%、41歳:27.9%、42歳:21.0%、43歳:23.5%、44歳以上:21.0%であった。集団接種対象群（34歳以上）と非対象群（25～33歳）の抗体陰性率は19.6%と17.0%であり差を認めなかった（ $p=0.373$ ）。【結論】集団接種非対象群（25～33歳）も比較的低い抗体陰性率であった。一方41歳以上では集団接種を受けているが抗体陰性率が高かった。これは過去のワクチン接種で獲得した免疫が経年的に低下したものと考えられる。CRS 発生予防のためには妊娠を希望する女性には年代の区別なく風疹HI抗体価を測定し低抗体価ならワクチン接種を実施することが肝要であると考えられた。